

式 辞

春らんまんという言葉のとおり、木々の緑が映え、
数々の花が咲き、光あふれる季節を迎えました。

この、すべての命が輝く今日のおき日に、第六十
六回明石市立明石商業高等学校入学式を挙行でき
ますことは、この上もない喜びとするところで

あり、ご来場の皆様には感謝申し上げますところでござ
います。

平素より、本校に格段のご高配をいただいております
ます 明石市長 泉 房穂 様、

明石市市議会議員 三好 宏 様 をはじめ、

ご来賓の皆さまには、ご多忙中のご臨席を賜り、
誠にありがとうございます。高いところからではご
ざいますが、教職員を代表いたしまして、厚く御礼
を申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました、国際会計科
40名、商業科240名の皆さん、入学おめでとう
ございます。保護者の皆様におかれましても、新し
い制服に身をつつんだお子様の姿に、感激もひとし
おのことと存じます。心からお喜びを申し上げます。
す。

さて、入学生の皆さん、今日から皆さんは、明石
商業高校第66回生として本校で学ぶこととなり
ました。皆さん自身、これまでよく努力し、

この日を迎えたことと思います。同時に、皆さんを
支えてこられた家族の方々、親身になって面倒を

をみてくださった中学校の先生、切磋琢磨した級友、その他関わっていたいただいたすべての方へ、感謝の気持ちをお忘れなくください。

明石商業高校は、昭和28年に経済の復興と産業教育の振興を旗印に設立されて以来、明石の地とそれぞれの時代に即応する教育を行い、有能な実業人を養成する実業高校として歩んでまいりました。この4月から、明石市が中核市に移行し、有意な社会人を輩出するという本校の役割が、さらに期待されることとなりました。

本校の校訓は、自立、親和、感謝です。

「自立」は、不屈の精神を基盤として、自らを鍛えるような生活習慣を身につけ、高校生として自主的、創造的に活動することです。

「親和」とは、礼儀を尊び、道徳心を培いながら、親しみと協調を持って生きることです。「感謝」とは、人を敬う精神を培い、誠意と思いやりを持つ、ということです。

校訓は、建学の精神であり、時代は変わっても、皆さんを導く羅針盤となるものですから、しっかりと心に刻んでください。

それでは、入学生の皆さんに三つお話しします。一つ目は、「自分を肯定し、他の人の良いところを認める」ということです。高校生活では、新しい出会いが数多く訪れます。あなたには、あなただけの素晴らしさがあり、他人と比較する必要はありません。同時に、他の人の優れたところを見つけて、言葉に出してあげてください。他人を敬うということです。そうすれば、きっと良い人間関係をつくることができ、あなたを支えてくれる人が近くにいて

くれることでしよう。また、誰かが助けを求めるとき、手をさしのべて、支えてあげてください。

二つ目は、「勉学に励み、社会人として自立できる人間に成長してほしい」ということです。明石商業高校では、本校でしか体験できない学びが数多く

用意されています。この3年間でしっかりと学習し、資格を取得し、社会人としての礎を築いてください。また、小学校、中学校では、校則に従って学校生活を送ってきたことと思います。しかし、高等学校は、義務教育と社会との架け橋となる時期です。

細かな規則がなくとも、道徳心や社会の常識に従って行動できる規範意識を身に付けて欲しいと思います。さらに、社会では決して一人では行動できません。周りの人の意見に耳を傾け、時には自分の意見を主張しながら課題を解決していく態勢が必要不可欠です。学校での学びを通して、人と対話する力、組織で協働する力を培ってください。

三つ目は、「新しいものを創りあげる楽しさを感じてほしい」ということです。現代社会は、人工知能の発達に伴い、自動車の自動運転が進められるなど、

数年前までは不可能と思われたことが現実となってきました。将来、皆さんは、今では想像もできないような仕事に就くこともあるでしょう。そこでは、身につけている知識や技能だけでは、対応できないことがたくさんあります。高校生活を通して、新しいことにチャレンジする精神を培ってください。意から有を創り出す際には、今持っている知識の上に新しい視点を持つこと、楽しみながら行動することが大切です。

最後になりますが、保護者の皆様、本日より

3年間お子様をお預かりさせていただきまます。教職員一同、精一杯力を尽くして教育に当たる所存であります。教育は保護者の皆様と学校、地域が子どもたちの成長と幸せをともに願ひ、同じ方向に向かい手を携えて行つてこそ最大の効果を爲るものであります。本校教育の推進にご理解とご協力をいただきますようお願ひ申し上げます、式辞といたします。

平成三十年四月九日

明石市立明石商業高等学校長 楠田俊夫